

講演会 & ライブ な日々 ②⑤

古川 秀明

免許更新

◇延長申請◇

5年に一度の免許更新の時がきた。

ところが、コロナウイルスの影響で免許更新業務が滞っている。

私は7月生まれだが、申請業務が滞り、7月の時点で4月～6月生まれの人の免許更新がまだできていない状態だった。

免許更新は大勢の人が集まって行列を作るので、クラスター発生の危険性は高い。

当然自粛対象になったのだろう。

免許更新の通知のはがきが来たが、いまひとつ要領を得ない内容だった。

仕方ないので、所轄の警察署に問い合わせると、本庁からの通知がまだ来ていないので、所轄の警察署もどうして良いのか分からない状態とのこと。

とりあえず、警察署に来て、3か月の延長申請をすることを薦められた。

そうすればどのような事態になっても、3か月は免許証の期限切れで失効する

ことはないとのこと。

なるほど、警察署が分からないことを私がいくら考えてもわからない。

ここはそのアドバイスを素直に聞くしかない。

警察署に行くとたくさんの人が免許更新の問い合わせや、延長申請に来ていた。

こんなに大勢の人がいたら、ここからクラスターが発生するのではないかと心配になったが、あっという間に自分の順番が回ってきた。

免許証の延長申請だと告げると、5分と経たないうちに手続きが終わった。

免許証の裏に赤字で10月までの期限延長が記載された。

この調子では、免許更新は10月になるのだろうか……。

◇必ずチェック！◇

窓口の人に、今後どうなるか見通しはあるのか聞いてみた。

すると即座に「私たちもまだわからないのですが、スマホやパソコンは使えますか？」と問われたので、使えると答えた。

それならば、とにかく毎日大阪府警のホームページをチェックしてください。そこが最新の情報源になります。

う～ん、まるで超人気バンドのチケット先行発売の情報取得ではないか。

早いもの勝ちで免許更新ができるのだろうか……。

スマホやパソコンを使わない高齢者はどうなるのだろうか？

聞いてみると、使える人に頼るか、警察に電話で問い合わせてもらいしかありません、とのこと。

そんな人はたくさんおられますか？と聞くと、大阪府警だけで、毎日数百件の問い合わせがあるそうだ。

そういう現状であれば、明日から毎日大阪府警のホームページをチェックする

しかなさそうだ。

やれやれ、なんでよりによって私の免許更新時期にコロナが来るかなあ。

もう1年ずれていたらこんな手間はかからないのに。

だけど、こんな風に時の流れによる災難を嘆く人は大勢いるだろうなあ。

ひょっとしたらそのことが幸運に結びつく人もいるかもしれない。

いずれにしても、個人がそれをコントロールできるような問題ではなさそうだ。

よし、明日から夏休みのラジオ体操のように、毎朝決まった時間にホームページをチェックしよう！

◇いきなり更新スタート◇

翌朝、大阪府警のホームページをチェックすると、いきなり最新情報が掲示されていた。

それによると、ネットにて日にちを予約し、その日のその時間帯に住んでいる地域の警察署に行けば運転免許更新ができると書いてあった。

予約はコロナ対策のために人数制限を設定し、先着順となっていた。

早速希望の日にちと時間を入力すると、定員の三分の一も埋まってなかった。

土日の午後に集中しているのかもしれないが、いずれにしろ、希望の日時に予約が取れて安心した。

しかし、これならば昨日の三か月延長更新がいらなかったなあ。

まあ、所轄の警察の人もどうなるのか分からなかったのだから仕方ないか。

三か月延長せずに、いきなり第二波が来て、延長手続き業務ができなくなったら、それこそ期限切れになる可能性がある。

やっと一安心と思いきや、とても大変なことを思い出した。

免許更新には視力検査がある。

普通の視力検査だけなら問題はないのだが、私は深視力検査も受けなければならない。

深視力検査は自動車運転免許のうち、大型免許、中型免許、準中型免許、けん引免許、普通二種免許、中型二種免許、大型二種免許を持つものは必ず受けなければならない。

私は大型免許を持っているので、これに該当する。

この深視力検査は、免許更新をするたびに私のところを悩ませる。

◇深視力検査なんか大嫌いだ！◇

そもそもなんで深視力検査が必要かと言うと、物体の遠近感、立体感、奥行き、動的な遠近感を捉える目の能力を測る目的がある。

通常の視力検査で目がいい、悪いと言われている場合は、どれだけよく見えているかという（遠見視力）概念がベースにあるが、深視力検査は、これとは異なる能力である。

人は右目、左目に映った物体を別々の物として捉えず一つの像として見るが、右目と左目の位置が完全対称にないために、同じ物体を見た時に各目に映る像に微妙なズレが出てくる。

その微妙なズレを一つの像として処理する時に、遠近感、距離感が得られる。

この距離感を感じる事により物体の位置状況が把握できるため、運転時には非常に重要な眼の能力と言える。

具体的に何に必要かと言うと、バックミラーである。

普段あまり気に掛けることはないと思うが、今度街で大型のトラックやダンプ、バスなどのバックミラーを観察して見られるとわかる。

普通乗用車のバックミラーはミラーが平らだが、大型自動車のバックミラーは湾曲している。

広範囲が視野に入るのだが、遠近感がかなり実際の距離とずれる。

このずれを見抜く力が深視力である。

この深視力検査は、なかなか通らない。

いくら卓越した運転技術を持っていても、これに通らないと大型免許はもらえない。

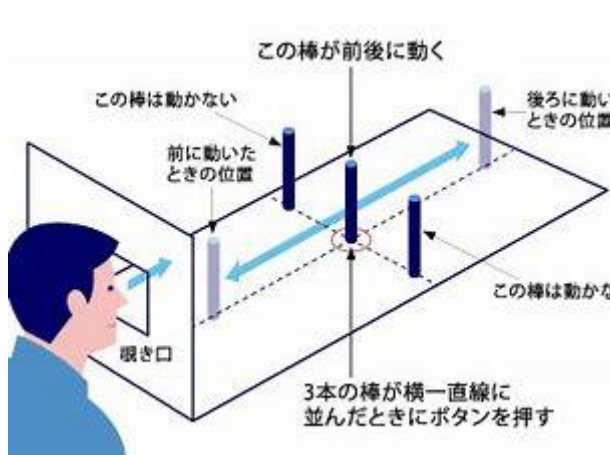
多くの大型免許ドライバーがこれに泣かされる。

◇これが深視力検査だ◇

私は20代で大型免許を取得してから、ずっとこの深視力検査に悩まされ続けている。

なにせ、一回でパスした試しがない。

深視力検査の方法は至ってシンプルだ。



横に並んだ3本の棒のうち、真ん中の棒だけが前後に移動する。

3本の棒が一直線に並んだ時にボタンを押し、検査者に合図する。

誤差は前後で最大2センチまで。

3回連続でパスしないと合格にはならない。

なんや、簡単やんと思うなかれ。

最初は真ん中の棒が動いていることもわからない。

ここだ！とスイッチを押しても指導員に「ずいぶん手前ですね、見えてますか？」と何度も言われる。

しまいに腹が立ち、もう免許なんかいるか！とやけくそになるが、また免許を取り直す手間とお金を考えたら、ここで踏ん張るしかない。

今ここで、はっきりと、声を大にして言わせてもらうが、私はこの

深視力検査が大嫌いだ！

◇更新日当日◇

ユーチューブで検索すると、深視力検査攻略法が何本もアップされていた。

私のようにこれで苦労している人がたくさんいるのだ。

前日にその動画を何十回も観た。
しかし、これが良くなかった。

見過ぎて目が疲れ果てていた。

最後は動画の3本の棒が8本に見えた。

絶望感と後悔に苛まれながら検査会場へ。

注意書きに「受付の時間より前にお越しになられても、受付はできませんのでご注意ください」と書いてあった。

それを信じて受付時間きっかりに行くと、15番目だった。

なんだ！嘘つき！みんな時間よりずいぶん早く来て順番取ってるやん！

しかし、文句言っても仕方ない。

私は前日に疲れ果てた目を回復すべく、疲れ目の目薬を大量にぶちこみ、なるべく遠くの緑を見るようにして目を休め、順番を待った。

1番から順番に次々と検査をパスして行った。

もっとも深視力検査をしている人はまだ一人もいない。

この調子だと、私が本日1番目の深視力検査を受ける人になりそうだ。

う～、私より前に深視力検査をする人がいて、その人が苦勞している姿をみたら、自分だけではないと少しは安心できるのに・・・

◇いよいよ順番は次だ。◇

とんとん拍子に14番目まで順番が回ってきた。

いよいよ次は私の番だ。

14番目の人は見るからにご高齢の男性。

検査者の女性の声がなかなか聞き取れない。

検査者「〇〇××さんですね？」

男性「はあ？」

検査者「ですから、〇〇××さんですよ」

男性「へえ？」

検査者「免許更新の〇〇××さんですよ？」

男性「あんた、もうちょっと大きい声で言ってくれんと聞こえんよ」

検査者「免許更新の〇〇××さんですよ？」」

男性「よろしい。今度からそのくらいの大ききさで」

検査者「すいません、わかりました」

→これではまるで、〇〇さんが検査者みたいだ。

なんでもいいから、このおじいさんが早く終わって欲しいなと願いながら、私は

忍耐強く順番が回って来るのを待った。

深視力検査さえ終われば、私は優良ドライバーなので30分の講習を受けさせればすぐに帰れる。

このおじいさんが大型免許を持っているとは思えなかったので、視力検査のみですぐに終わるだろう……。

ところがそうはどっこい、問屋が卸さなかった。

◇過酷なナンバー◇

検査者「それでは最初に4桁の暗証番号を2回、合計8桁の暗証番号を決めて、打ち込んで下さい」

男性「何の番号？」

検査者「暗証番号です」

男性「銀行か？郵便局か？銀行も郵便局も忘れないようにわしの誕生日にしてあるから、123……」

検査者「大声でその暗証番号を言ってはだめですよ！」

男性「あんたが暗証番号を言えと言ったから！」

検査者「だからその銀行とか郵便局ではなくて、〇〇さんが自分で決めた暗証番号ですよ」

男性「だからわしがわしの誕生日と同じ番号を暗証番号にしたんや」

検査者「いえ、違うんです。今ここで決めて欲しいんです」

男性「何を？」

検査者「ですから暗証番号です」

男性「なんで免許更新に暗証番号が？」

検査者「現在の運転免許証にはICチップが組み込まれているのですが、その中

には運転免許証の表に印刷されている内容と「本籍」が記録されています。そのままでは、ICチップを読み取る装置を近づけるだけで、読み取れてしまいもう恐れがあり、ロックをかけて簡単に読み取れなくするために、暗証番号を2つ設定することになっています」

→実に見事な説明である。これで納得するだろうと思いきや・・・。

男性「わしは別に本籍がわかってもかまわんよ」

検査者「〇〇さんは良くて、個人情報なので知られたくない人もおられますから」

男性「それならその人のだけチップだかロックだかにしたらよろしい。わしにまでそれを強要するのは迷惑だ」

→私は今日中に免許更新ができるのだろうか・・・。

◇間違えてクリア◇

検査者「とりあえず4桁の暗証番号を二回その機械に打ち込んでください」

男性「わかった。これやな。別に銀行の暗証番号と一緒にでもかまわんか？」

検査者「はい、〇〇さんが大丈夫ならそれで結構です」

男性「それなら123・・・」

検査者「だから声に出して読み上げないでください」

男性「いちいちうるさいな、あんたは。間違えてしもたやないか」

検査者「大丈夫ですよ。そこにクリアがありますよね」

男性「いやあ、あれはずいぶん前につぶれたよ。わしも好きでよう買いに行った」

検査者「はあ？いえ、違うんです。そこの右側にクリアがありますよね」

男性「だからあの栗屋はもうあらへん。先代が亡くなって店じまいや」

検査者「あの〇〇さん、栗屋さんではなくて、クリアというカタカナの文字がタ

タッチパネルの右側に出ていますよね」

男性「おお、これか、これをどうするんや？」

検査者「それを押しもらうと、間違ったところからやり直せます」

男性「なるほど、クリアを押して・・・、うわ～、全部消えてしもた！」

検査者「〇〇さん、長押しすると全部消えてしまいます。一字ずつ消してください」

男性「それならそうと、最初から言うてくれ。また一から打たなあかんやないか」

検査者「それはどうもすいませんでしたね」

男性「え～と、銀行と同じ番号やったな。そやし123・・・」

検査者「だから大声で読み上げてはだめですって」

→私は今日中に免許更新ができるのだろうか・・・。というか、今すぐに家に帰りたい。

◇過酷な視力検査◇

検査者「それでは視力検査をします。今眼鏡をかけておられますが、いつも眼鏡をかけておられますか？」

男性「いや、そうとも限らんよ」

検査者「わかりました。それではまず眼鏡を外して、上下左右どちらが開いているか教えてください。まず、これはどうですか？」

男性「右のようにも見えるが上かもしれない」

検査者「どれかひとつにしてください。見えなければ見えないと言ってください」

男性「見えないことはないが、右にも上にも見える」

検査者「それでは困ります。〇〇さん、眼鏡をかけていないときもおありなんですよね？」

男性「ああ、風呂に入る時と寝る時だけ外す」

検査者「そういうのを、いつも眼鏡をかけているって言います。すみません、〇〇さん、眼鏡をかけてもらえますか？」

男性「今度はかけるのか？」

検査者「はい、お願いします。これはどうですか？」

男性「上」

検査者「これは？」

男性「左」

検査者「これは」

男性「下」

検査者「それでは・・・」

男性「上」

検査者「まだ何も見せていません」

→私は今日中に免許更新ができるのだろうか・・・。

◇〇〇さん、合格です。◇

検査者「はい、視力検査も OK です。〇〇さん、合格です。この書類を持って、建物の横にある試験センターで講習の手続きをしてください」

男性「ありがとう」

検査者「お疲れ様でした」

→やっと俺の番が回って来ると思いきや、〇〇さんが戻ってきた。
いい加減にしてくれよ！

男性「お姉さん、いろいろ言っすまなんだな。そやけどお姉さん、あんたがわしの家族やったらどんなにええやろかと思ったわ」

検査者「それはありがとうございます」

男性「今度の免許更新の時もあんたでお願いしたいんやが、指名はできるのか？」

→指名て、新地のホステスやあるまいし！

検査者「異動もありますので、指名は無理ですが、そう言って頂けるだけで嬉しいです」

男性「(私に向かって) お兄さん、待たせてしまってすみませんでしたな」

→この男性からみたら俺はまだまだお兄さんなのだ。いままでムカついていた気持ちが一気に晴れる。

しかし、確かにこの検査者の女性はまだ若い、根気よく、優しく、丁寧に〇〇さんに対応していた。

この女性は警察の交通課より、老人福祉施設で働かれた方がいいかもしれない。

いやいや、高齢化社会を迎えるにあたって、日本人みんなが、どんな職業の人も、この女性のように、高齢者に対する優しさと思いやりを見習うべきかもしれない。

◇最終回。やっと順番が回ってきた。◇

検査者「古川さん、お待たせしましたね、それではまずこの機械で・・・」

私「はい、教えてもらわなくても大丈夫です。〇〇さんで全部覚えましたから」

→検査者の奥にいる、署員の人たちのデスクから爆笑の嵐。

私「ちなみにクリアは一回ずつしか押しませんので」

→またまた爆笑！こうなったら私の独壇場だ。

そして、ついに、いよいよ深視力検査である。

昨日からずっと私を悩ませている深視力検査、ここで決着をつけるぞ。

機械の前で、私は首をコキコキと鳴らし、両手を何度も握ったり開いたりして、ボタンを押す手の筋肉をほぐし、大きく深呼吸をして検査の機械を覗き込んだ。

検査者「めちゃめちゃ気合入ってますね」

私「はい。いつでもどうぞ！」

検査者「では一回目、はいクリア。二回目、はいクリア、三回目、はいクリア、凄いですよ、ほとんど誤差がありません」

私「おっしゃ！（思わずガッツポーズ）」

検査者「深視力はみなさん苦勞なされますからね。お見事でした」

私「はい、何せ昨日、練習動画を何回も見過ぎて、最後は三本の棒が八本に見えましたから」

→またまたデスクから爆笑の声。

私「今度みなさんに栗屋で栗を買ってきて差し入れしますよ」

→やんややんやの大爆笑。

講習会場に行くと、ちょうど私の前の〇〇さんで一回目の講義が締め切られていた。

つまり、いまから30分以上待たなければならない。

やれやれ・・・。

けど〇〇さんに笑わせてもらったし、検査者の人の優しさにも触れられたし、デスクの爆笑も誘ったし、深視力検査も一発合格したし・・・。

ま、ええか。

外は豪雨で真っ黒な空だったが、私のところは晴れやかだった。

シンガーソングカウンセラー
ふるかわひであき